

2010年度業績と2011年度の取り組み

～12Visionの達成に向けて～

社長 松本 正義



目次

1. 2010年度業績

1. 業績サマリー
2. 売上高実績
3. 海外拠点の拡充と国内拠点の効率化
4. 海外比率の拡大
5. 営業利益率とROAの向上
6. 営業利益の改善
7. セグメント別売上高・営業利益
8. 東日本大震災の影響と対策
9. 2010年度 連結PL
10. 2010年度 連結BS

2. 2011年度の施策と業績見通し

1. 対策サマリー
2. 需要環境と売上高予想
3. 設備投資・研究開発計画
4. セグメント別売上高と営業利益
5. 12Vision達成に向けた営業利益の確保
6. 2011年度業績予想

3. 各セグメントの取組みと進捗状況

1. 自動車関連事業
2. ワイヤーハーネスの売上高予想
3. ワイヤーハーネスのグローバル生産体制構築
4. 情報通信・システム関連事業
5. エレクトロニクス関連事業
6. 電線・機材・エネルギー関連事業
7. 産業素材関連事業
8. 研究開発

4. 配当について



1. 2010年度業績



1-1. 2010年度業績サマリー

FY2010 Result & FY2011 Forecast

- ✓ 新興国の成長を背景としたグローバルな需要の増加に対応し、自動車・産業素材関連の売上高を着実に拡大。
- ✓ 伸長する需要に対応して海外の拠点を拡充する一方、国内拠点については、国際競争力を強化すべく統合・効率化を推進。
- ✓ 事業・ポートフォリオ別の施策と全事業に亘るコストダウンによって、全体の営業利益率とROA(使用資本営業利益率)を改善。
為替や内需は想定よりも厳しく、震災ダメージもあったが、純利益を計画通り確保し、財務体質を一段と改善。→増配
- ✓ 東日本大震災によって大きなダメージを被ったが(災害損失88億円)、これを機に、電力供給制限下でも安定的に操業を継続できるよう、生産ラインの再構築を推進。
- ✓ R&Dの成果として、熔融塩電池の開発に成功(具体的な製品仕様は今後)。量産化・事業化の成果は低圧系のアルミハーネス。



1-2. 売上高実績

FY2010 Result & FY2011 Forecast

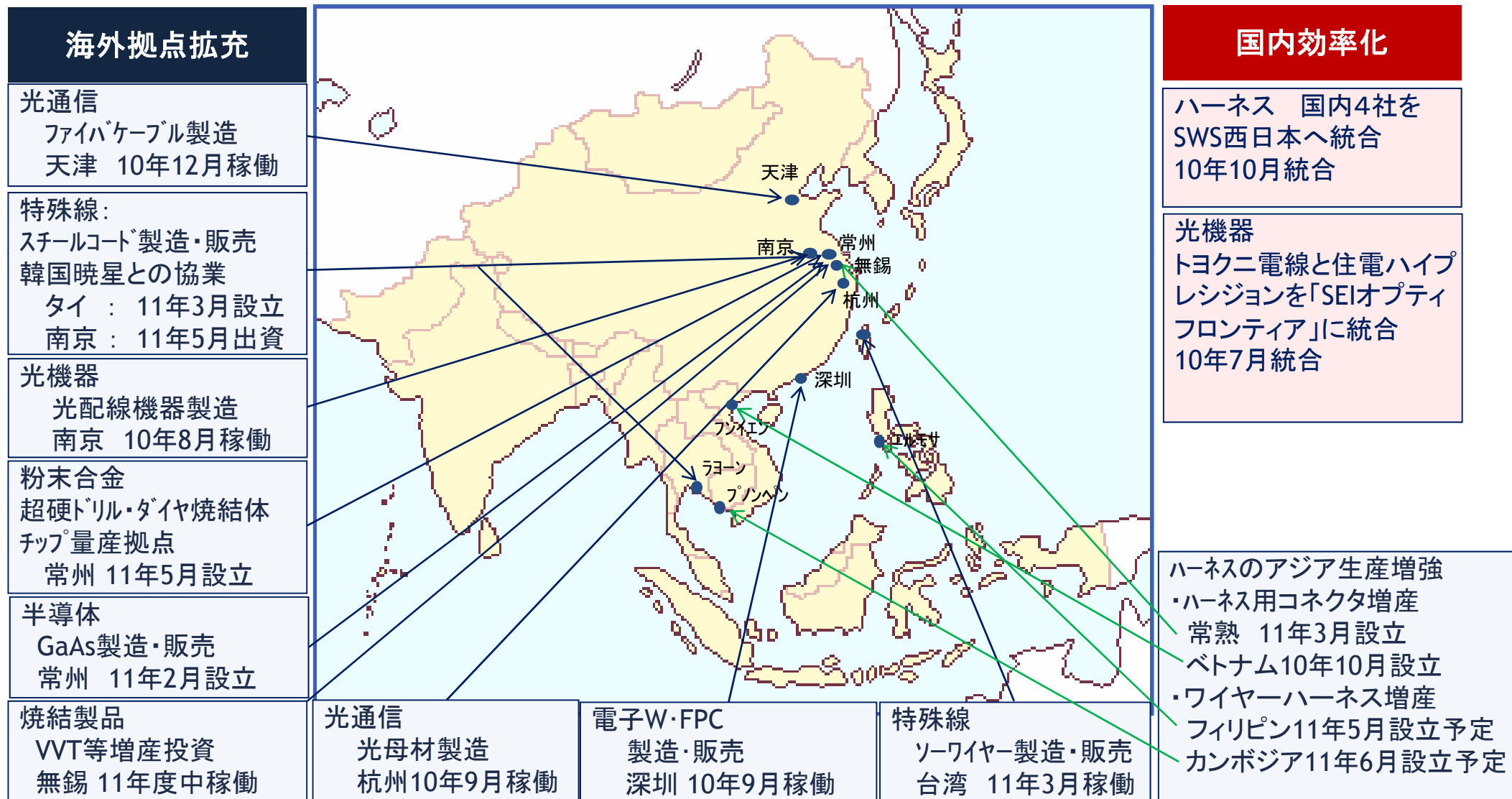
新興国の成長を背景としたグローバルな需要の増加に対応し、自動車・産業素材関連の売上を拡大。円高の逆風、期末の震災による需要減はあったが、前期比11%の増収を確保。

| (億円) | 2009年度 | 2010年度 | 増減 | 増減要因 |
|-----------------|--------|--------|--------|--|
| 自動車 | 8,166 | 9,600 | +1,434 | 欧州、北米、中国ワイヤーハーネス増 ワイヤーハーネスシェア22%→25% |
| 情報通信 | 2,712 | 2,182 | △530 | 通信工事子会社（コムチューア）再編△429億円、NW機器減 光電子デバイス増 |
| エレクトロニクス | 1,651 | 1,782 | +131 | 電子ワイヤー、ファインポリマー製品、FPC増 |
| 電線・機材・ エネルギー | 4,125 | 4,649 | +524 | 銅価上昇影響 約+330億円、巻線需要増 |
| 産業素材他 | 2,282 | 2,775 | +493 | 超硬工具増、アライメント材料（グイ関連・粉末）製品増 特殊金属線（バネ線、ソーワイヤー）増 |
| 消 去 | △572 | △650 | △78 | |
| 合 計 | 18,364 | 20,338 | +1,974 | |

1-3. 海外拠点の拡充と国内拠点の効率化

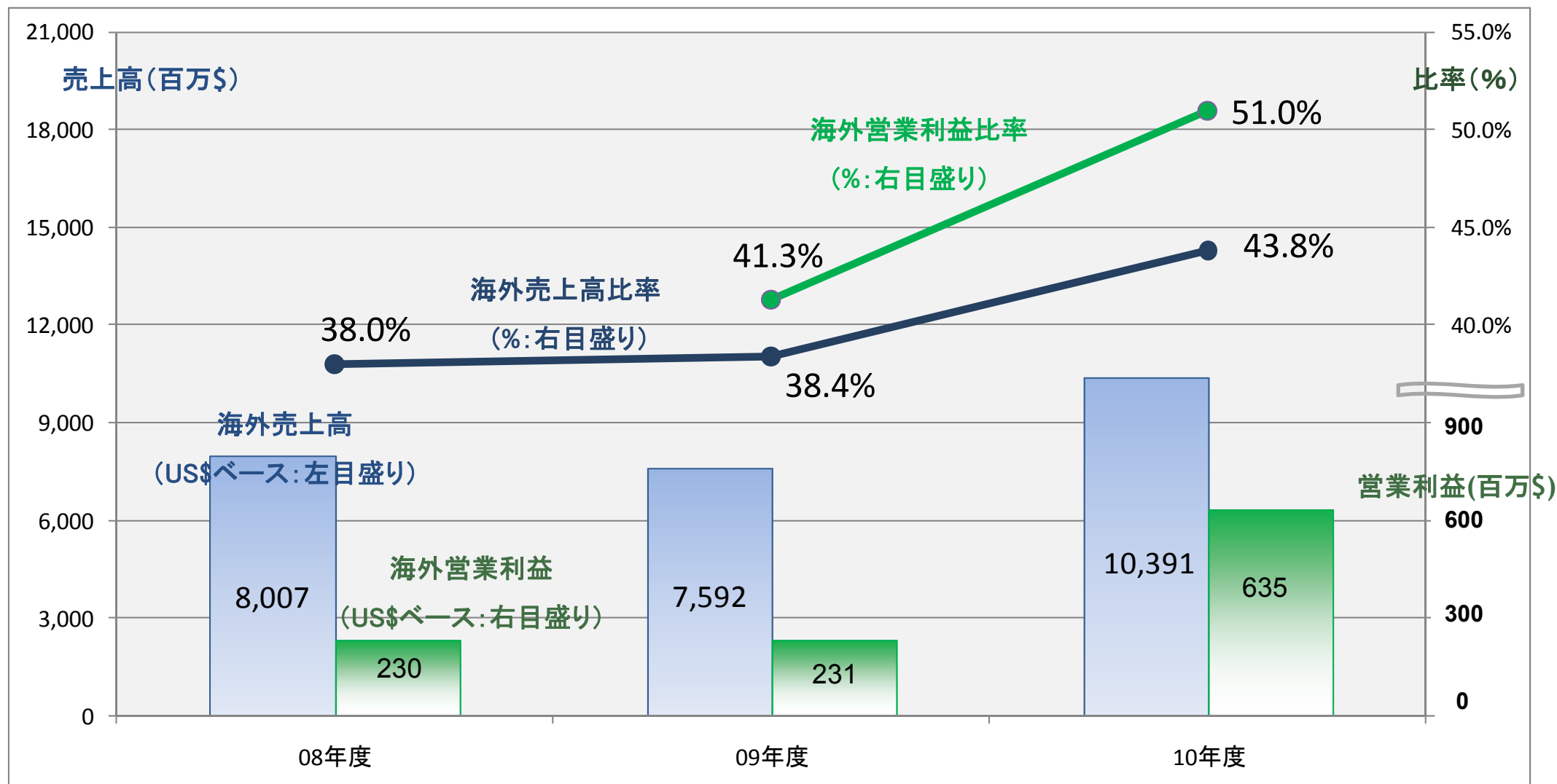
FY2010Result & FY2011Forecast

伸長する需要に対応して海外の拠点を拡充する一方、国内拠点については、国際競争力を強化すべく統合・効率化を推進。



1-4. 海外比率の拡大

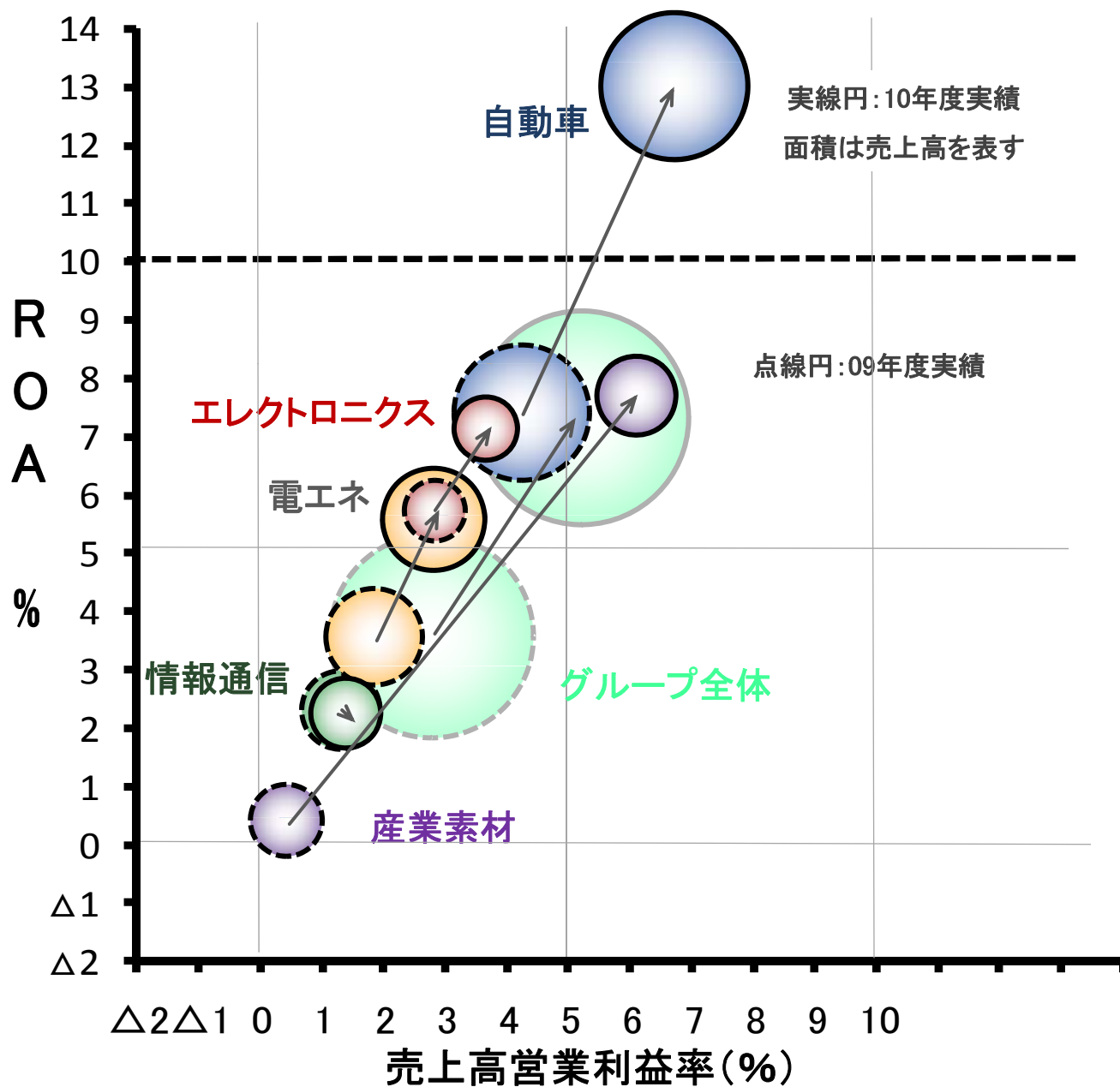
成長する海外市場での拡販と生産能力増強により、海外売上高・海外営業利益を拡大。
 2010年度の海外売上高比率は43.8%、海外営業利益の比率は51.0%となったが、今後も引き続き成長する地域・市場での収益拡大を図る。





1-5. 営業利益率とROA(使用資本利益率)の向上

FY2010Result & FY2011Forecast



- ・事業・ポートフォリオ毎の施策と、全事業に亘る徹底的なコストダウンによって、営業利益率とROAを大幅に改善。

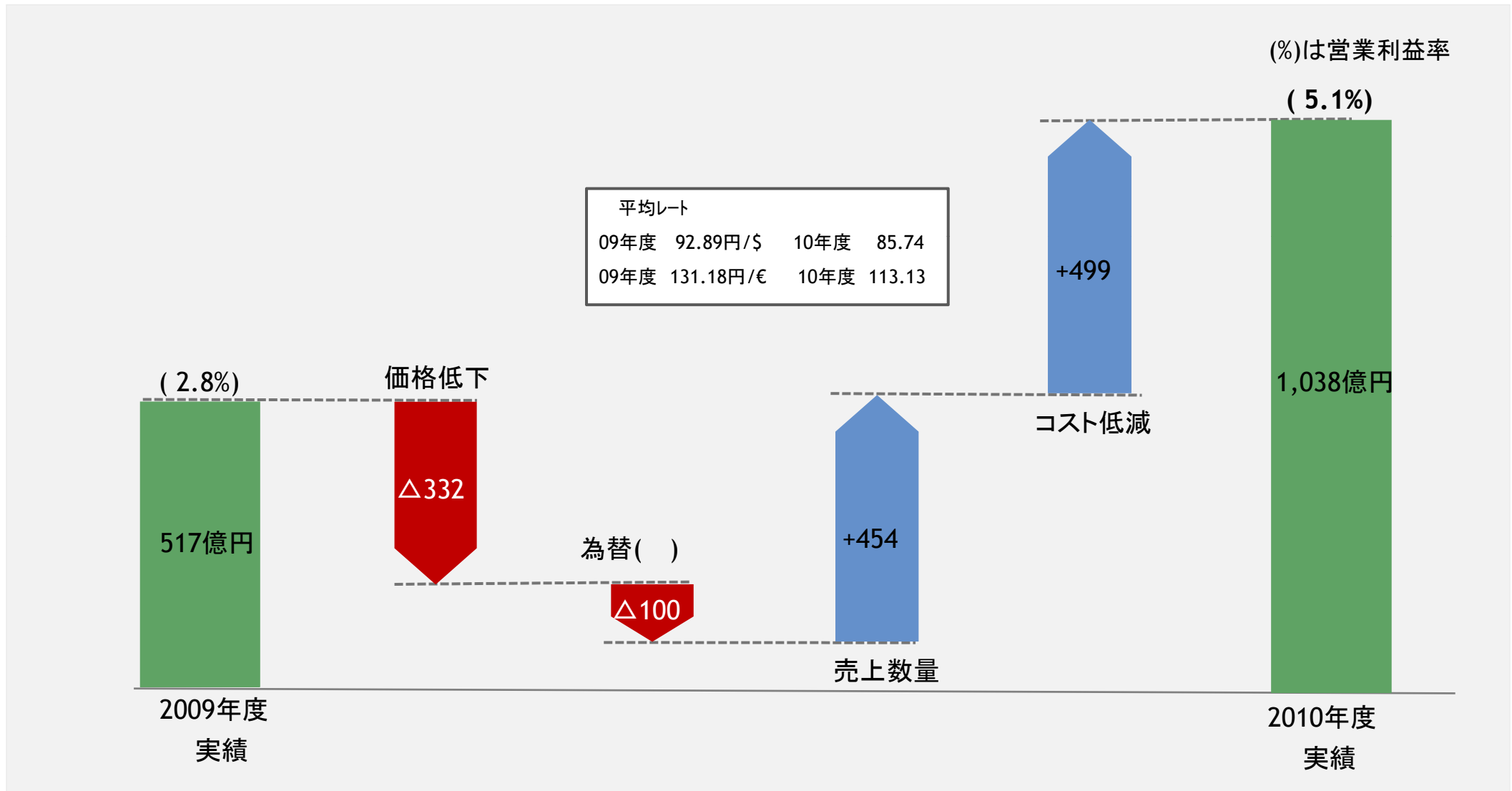
- ・製造リードタイムの短縮や不良率の低減など生産技術面の対策と、在庫管理面の対策により、棚卸資産を圧縮し、売上高利益率のみならずROAを向上。

(※)ROA= 営業利益 / 期中平均使用資本



1-6. 営業利益の改善

直接コストの低減と間接費・固定費の効率化(S.E.Q.C.D.D.)により、約500億円のコスト低減を達成し、営業利益率を5.1%まで回復。国際競争の激化に対応して今後も一段のコスト低減を推進する。





1-7. セグメント別売上高と営業利益

FY2010 Result & FY2011 Forecast

通信工事子会社の再編を行った情報通信を除いて、全セグメントが前年比増収増益。予想を超える円高の進行に加え、震災による需要減もあったが、年初予想を上回る1038億円の営業利益を確保。

| (億円) | 2009年度 実績① | | 2010年度 | | | | 前年同期比 | | 年初予想比 | |
|-------------|---------------|------|--------------|-------|------------|-------|------------|------|------------|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 年初予想② 売上高 | 営業利益 | 実績③ 売上高 | 営業利益 | ③-① 売上高 | 営業利益 | ③-② 売上高 | 営業利益 |
| 自動車 | 8,166 | 345 | 9,150 | 600 | 9,600 | 641 | +1,434 | +296 | +450 | +41 |
| 情報通信 | 2,712 | 36 | 2,200 | 20 | 2,182 | 30 | △530 | △6 | △18 | +10 |
| エレクトロニクス | 1,651 | 49 | 2,000 | 120 | 1,782 | 66 | +131 | +17 | △218 | △54 |
| 電線・機材・エネルギー | 4,125 | 79 | 4,550 | 110 | 4,649 | 134 | +524 | +55 | +99 | +24 |
| 産業素材他 | 2,282 | 9 | 2,800 | 150 | 2,775 | 169 | +493 | +160 | △25 | +19 |
| 消 去 | △572 | △1 | △700 | 0 | △650 | △2 | △78 | △1 | +50 | △2 |
| 合 計 | 18,364 | 517 | 20,000 | 1,000 | 20,338 | 1,038 | +1,974 | +521 | +338 | +38 |



1-8. 東日本大震災の影響と対策 ～生産ラインの再構築～

FY2010Result & FY2011Forecast

震災関連損失の計上

- ✓ 栃木県の光ファイバ製造拠点・当社横浜製作所を中心に、復旧費用(含む引当41億円)、棚卸資産廃却損等の災害損失を 88億円計上。

尚、急速な円高と国際競争の激化に加えて、今回の震災によって一段と事業環境が厳しくなった光ファイバケーブル事業を中心に、減損損失を 113億円計上。

生産ラインの復旧と安定操業確保対策

- ✓ 震災で損傷を被った生産ラインの復旧(グループ11拠点が被災)
 - ・光・電子デバイス[神奈川県横浜市]、特殊金属線(スチールコード)[栃木県宇都宮市]など、9拠点が2011年3月17日までに稼働再開
 - ・巻線[岩手県一関市・栃木県大田原市] : 2011年4月 5日に稼働再開
 - ・光ファイバケーブル[栃木県宇都宮市] : 2011年4月15日に稼働再開
- ✓ 電力供給不足下でも操業を安定継続できる体制の整備
生産シフトの再編成と自家発電システムの整備(2011年7月～)
国内で高付加価値製品を集中生産することの『アキレス腱』を克服。

サプライチェーンの再構築

- ✓ サプライチェーンのリスクが顕在化した事業については、資材調達のマルチソース化を推進。

1-9. 2010年度 連結PL

FY2010 Result & FY2011 Forecast

営業利益の改善と持分法損益の増加により、前期比+146%増、2.5倍の純利益を確保。
震災関連の特別損失はあったが、年初予想値を上回る実績となった。

| (億円) | 2009年度 実績 | 2010年度 年初予想 | 2010年度 実績 | 前年比 増減率 | 予想比 増減率 |
|-----------|--------------|----------------|--------------|------------|------------|
| 売上高 | 18,364 | 20,000 | 20,338 | +11% | +2% |
| 営業利益 | 517 | 1,000 | 1,038 | +101% | +4% |
| 持分法損益 | 122 | 180 | 239 | +96% | +33% |
| 経常利益 | 682 | 1,200 | 1,291 | +89% | +8% |
| 特別損益 | △128 | △100 | △153 | — | — |
| 税前当期純利益 | 554 | 1,100 | 1,138 | +105% | +3% |
| 税・少数株主利益等 | △267 | △500 | △432 | — | — |
| 当期純利益 | 287 | 600 | 706 | +146% | +18% |
| ROA ※ | 3.6% | 7.1% | 7.3% | +3.7% | +0.2% |
| ROE | 3.3% | 6.5% | 7.6% | +4.3% | +1.1% |

※ROA=営業利益/期中平均使用資本



1-10. 2010年度 連結BS

FY2010 Result & FY2011 Forecast

| (億円) | 09年3月末 実績 | 10年3月末 実績 | 11年3月末 実績 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 流動資産 | 8,688 | 9,600 | 9,888 |
| 固定資産 | 9,994 | 9,800 | 9,675 |
| 流動負債 | 5,552 | 5,579 | 5,310 |
| 固定負債 | 2,989 | 3,175 | 3,327 |
| (有利子負債) | 4,055 | 3,556 | 3,419 |
| (ネット有利子負債) | 2,616 | 1,800 | 1,498 |
| 株主資本 | 8,923 | 9,076 | 9,669 |
| その他の包括利益累計額 | △302 | △35 | △178 |
| 少数株主持分・新株予約権 | 1,520 | 1,604 | 1,435 |
| 総資産 | 18,682 | 19,399 | 19,563 |
| 自己資本比率 | 46.1% | 46.6% | 48.5% |
| D/Eレシオ | 0.47 | 0.39 | 0.36 |



2. 2011年度の施策と業績見通し



2-1. 2011年度の対策サマリー

FY2010Result & FY2011Forecast

- ✓ 需要環境は、震災後の自動車関連サプライチェーンの停滞など不透明要因多いが、リーマンショック時とは違って需要サイドに世界的なダメージは無く、当面、市場はグローバルに成長。
- ✓ 2011年度の業績予想は、①震災による生産停滞は2Q末には概ね解消、②震災による減産を挽回する需要までは織り込まず、という前提で策定したが、上方・下方いずれにも振れる可能性があるので、市場を十分に注視し、1Q及び2Qで年間計画を見直しつつ機動的に変化に対応する。
加えて、震災による減産を挽回する顧客のニーズには最大限対応できるよう、サプライチェーン・生産ラインの強化を図る。
- ✓ 中期的に進めている海外拠点の拡充と国内拠点の効率化(2011年度のメニュー)を着実に実施し、各セグメントで12V達成に向けた事業基盤を強化(下期の営業利益を800億円確保)する。
- ✓ R&Dの重点は2つ。
 - ①12Visionの目標に掲げたR&Dテーマについては、本年度を実質的な最終年度として完遂に向けた開発を強化する。
 - ②R&Dの領域の拡大・融合により、12Visionの先の成長に向けた地歩を固める。



2-2. 2011年度の需要環境と売上高予想

FY2010 Result & FY2011 Forecast

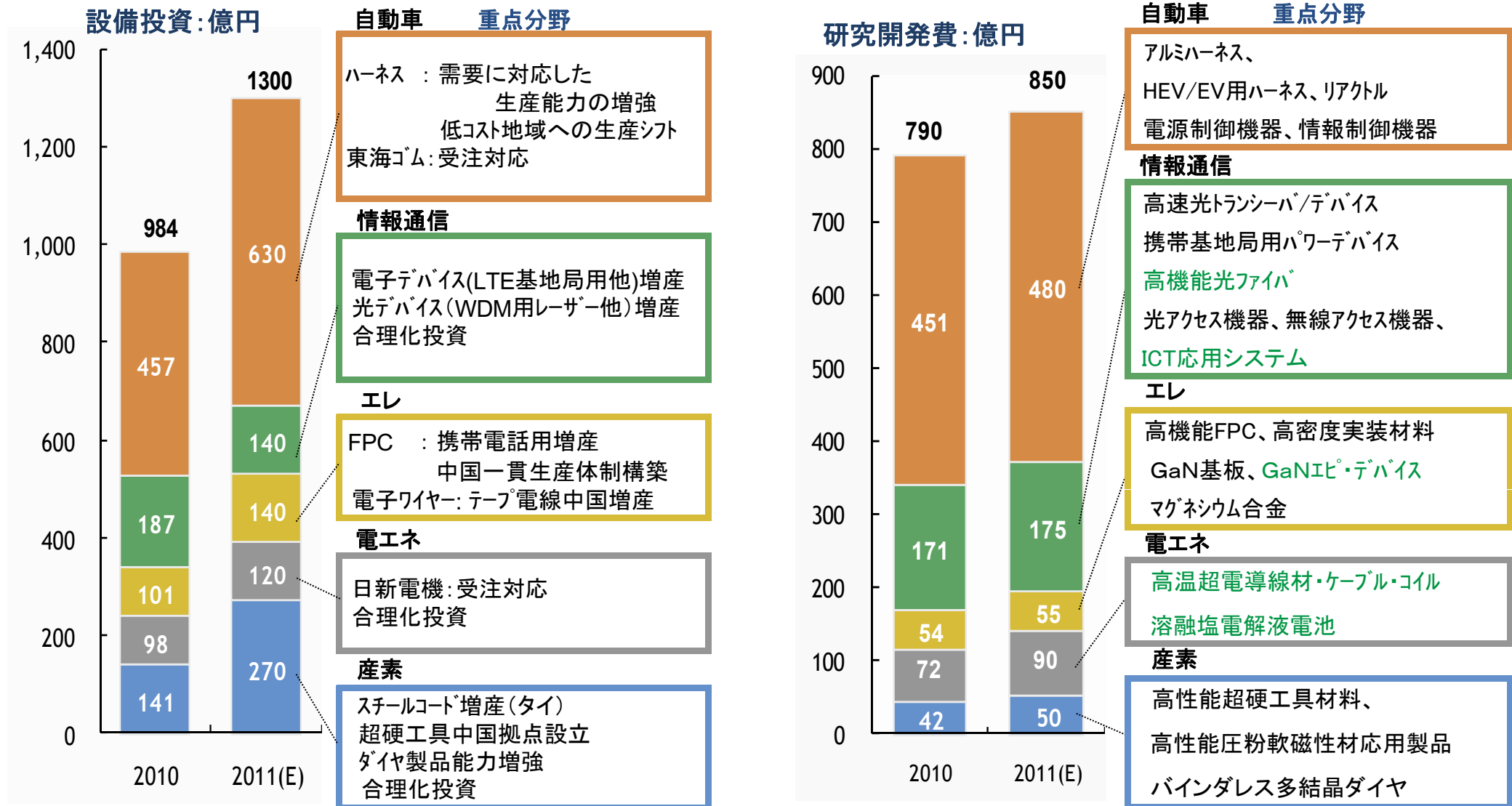
需要環境は、米・欧・新興国のそれぞれに景気後退の懸念材料あり、また日本を中心とした震災後の自動車関連サプライチェーンの停滞など不透明要因多いが、グローバルに市場は拡大・成長。従来以上に予測は難しいが、前提を置いて計画を策定(1Q, 2Qで見直)し、対策を着実に実施する。

| (億円) | 2010年度 | | 2011年度 | | |
|-------------|--------|--------|---|-------|--------|
| | 上期実績 | 下期実績 | 需要環境 (前提) | 上期予想 | 下期予想 |
| 自動車 | 4,689 | 4,911 | 震災前の世界生産予想:前年比+5% ⇒日本↓↑、アジア↓↑、北米→↑、欧→↑ | 4,300 | 5,300 |
| 情報通信 | 1,194 | 988 | 国内市場の伸び悩み、新興国のインフレ・景気過熱等の懸念あるが、グローバルには成長。 | 750 | 950 |
| エレクトロニクス | 860 | 922 | | 850 | 1,000 |
| 電線・機材・エネルギー | 2,146 | 2,503 | 震災による日本市場の一時的な落ち込みはあるが、巻線・超硬工具など産業用の基礎資材はグローバルに堅調。国内の建設・電販需要拡大。 | 2,250 | 2,700 |
| 産業素材他 | 1,331 | 1,444 | | 1,350 | 1,550 |
| 消 去 | △314 | △336 | | △500 | △500 |
| 合 計 | 9,906 | 10,432 | | 9,000 | 11,000 |

2-3. 設備投資と研究開発計画

FY2010 Result & FY2011 Forecast

成長市場における生産能力の増強を中心に、2011年度は1300億円の設備投資を計画。
研究開発については、12Visionの目標の完遂を図ると同時に、次世代の開発テーマを推進。



2-4. セグメント別売上高・営業利益

FY2010 Result & FY2011 Forecast

上期の自動車関連・内需関連は厳しい状況が続くと予想されるが、下期には営業利益800億円を確保し、年間で2010年並の営業利益を目指す。震災による減産を挽回する需要までは織り込んではいないが、増産を図る顧客ニーズに最大限対応すべく、サプライチェーン・生産ラインを強化する。

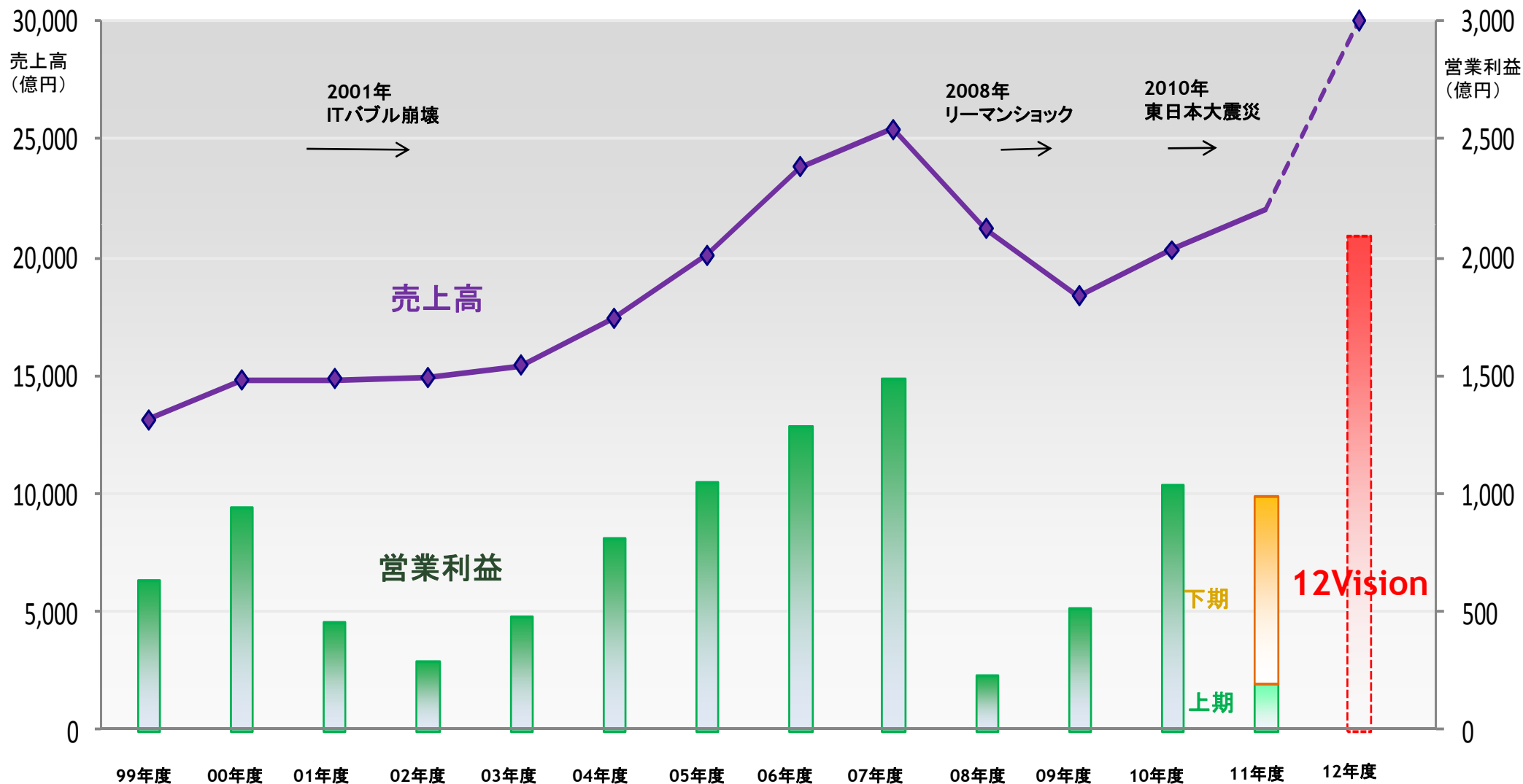
| (億円) | 2010年度 年間実績① | | 2011年度 | | | | 年間増減 ②-① | | | |
|-----------------|-----------------|-------|--------|------|--------|------|-------------|-------|------|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 上期予想 | | 下期予想 | | 年間予想② | | | |
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | | |
| 自動車 | 9,600 | 641 | 4,300 | 100 | 5,300 | 380 | 9,600 | 480 | +0 | △161 |
| 情報通信 | 2,182 | 30 | 750 | △60 | 950 | 70 | 1,700 | 10 | △482 | △20 |
| エレクトロニクス | 1,782 | 66 | 850 | 40 | 1,000 | 70 | 1,850 | 110 | +68 | +44 |
| 電線・機材・ エネルギー | 4,649 | 134 | 2,250 | 20 | 2,700 | 130 | 4,950 | 150 | +301 | +16 |
| 産業素材他 | 2,775 | 169 | 1,350 | 100 | 1,550 | 150 | 2,900 | 250 | +125 | +81 |
| 消 去 | △650 | △2 | △500 | 0 | △500 | 0 | △1,000 | 0 | △350 | +2 |
| 合 計 | 20,338 | 1,038 | 9,000 | 200 | 11,000 | 800 | 20,000 | 1,000 | △338 | △38 |



2-5. 12Vision達成に向けた営業利益の確保

FY2010Result & FY2011Forecast

足元の需要環境や為替・経済情勢を踏まえると12Visionの目標は高いハードルではあるが、11年度下期の営業利益を計画通り達成し、12Visionの目標値に繋げる足掛かりとする。





2-6. 2011年度業績予想

FY2010 Result & FY2011 Forecast

業績予想の前提 為替 : 85円/\$, 115円/€
銅 : 銅建値 85万円/t, LME 9500\$/t

| | (億円) | 2010年度 実績 | 2011年度 予想 | 前年比 増減率 |
|-------|------|--------------|--------------|------------|
| 売上高 | | 20,338 | 20,000 | ▲2% |
| 営業利益 | | 1,038 | 1,000 | ▲4% |
| 経常利益 | | 1,291 | 1,150 | ▲11% |
| 当期純利益 | | 706 | 650 | ▲8% |
| 設備投資額 | | 984 | 1,300 | +32% |
| 研究開発費 | | 790 | 850 | +8% |

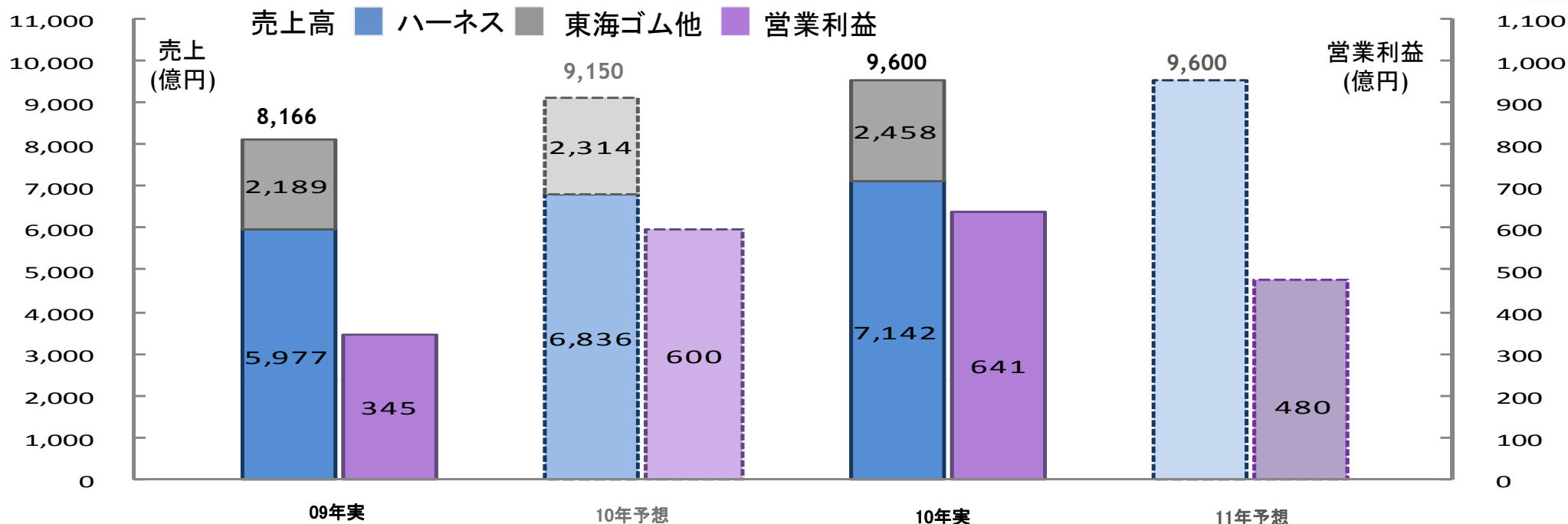


3. 各セグメントの取組みと進捗状況



3-1. 自動車関連事業

FY2010 Result & FY2011 Forecast



2010年度実績

- WHグローバルシェア 22%(09年度)→25%(10年度)
- 北米・欧州・中国のワイヤーハーネス売上増により18%の増収
- 世界最適生産の推進とコストダウンにより、営業利益率を6.7%に向上
- HEV・EV向け製品の開発・拡販
- アルミハーネス量産開始

2011年度の施策

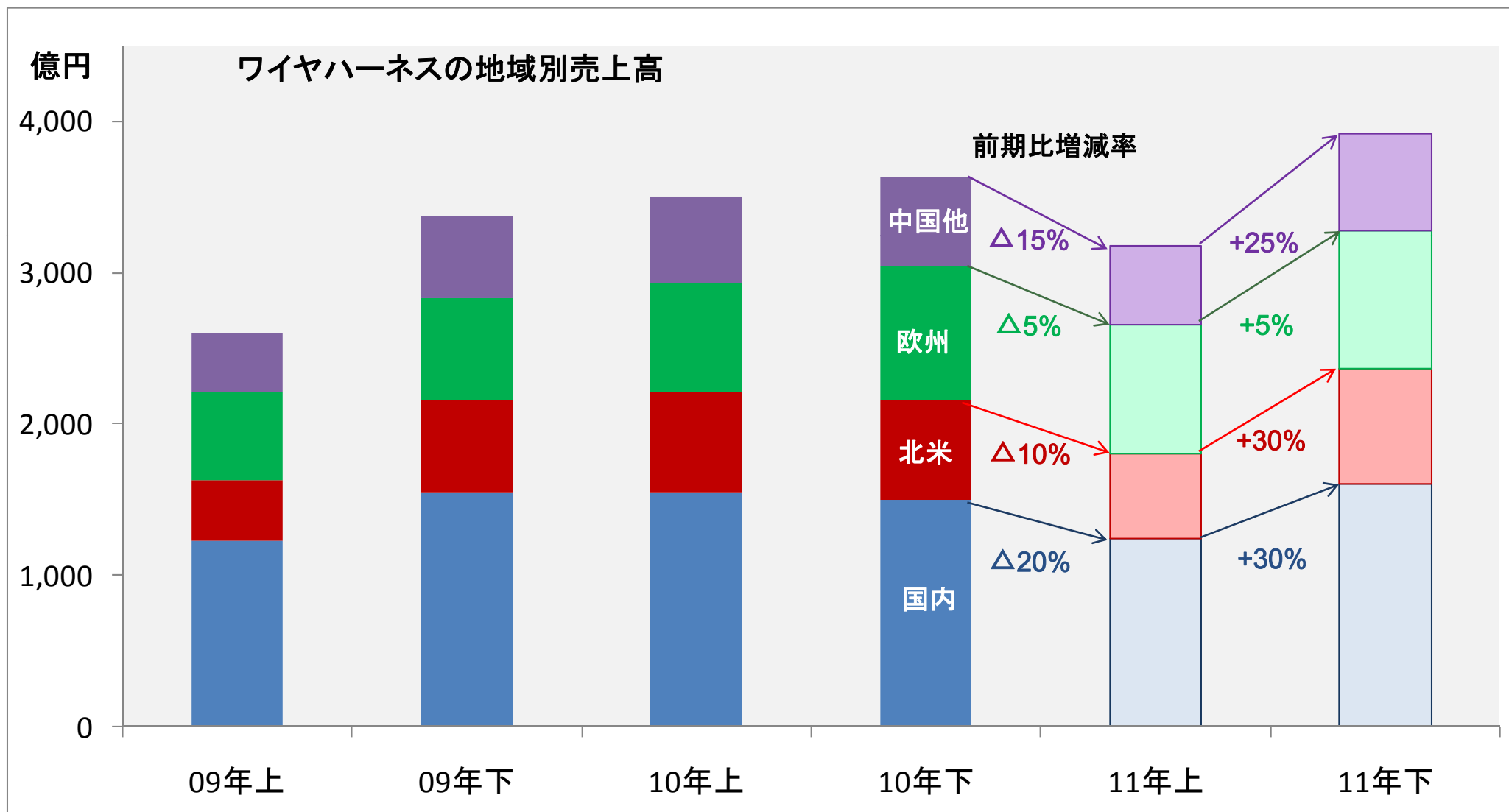
- 震災後の需要の見極めと機動的な生産対応
- 需要堅調ユーザー(欧州他)への供給能力拡大
- 中期的な需要に対応したグローバル生産ラインの拡充
- 営業利益率・ROA向上に向けた生産効率化
- HEV・EV向け新製品の開発
- アルミハーネスシステム、光ハーネスの開発と拡販



3-2. ワイヤーハーネスの売上高予想

FY2010 Result & FY2011 Forecast

2011年度上期は、以下の通り、国内を中心として地域別に減産を予想。
2011年度下期は、震災前に予想されていた需要の水準に戻すことを想定。



3-3. ワイヤーハーネスのグローバル生産体制構築

FY2010 Result & FY2011 Forecast

北米自動車市場に対応した設備投資(約50億円)

- ・日系カーメーカー向け新規車種対応、モデルチェンジ対応
- ・D3向け新規車種対応、部品拡販
- ・メキシコ拠点の生産能力増強

欧州

日本では、

- ・新技術・新製品開発投資
- ・グローバル展開する新製品・部品の先行開発投資
- ・投資効率を向上する為の生産技術開発 等を実施

アジアの拠点拡充については、5ページ参照

米州

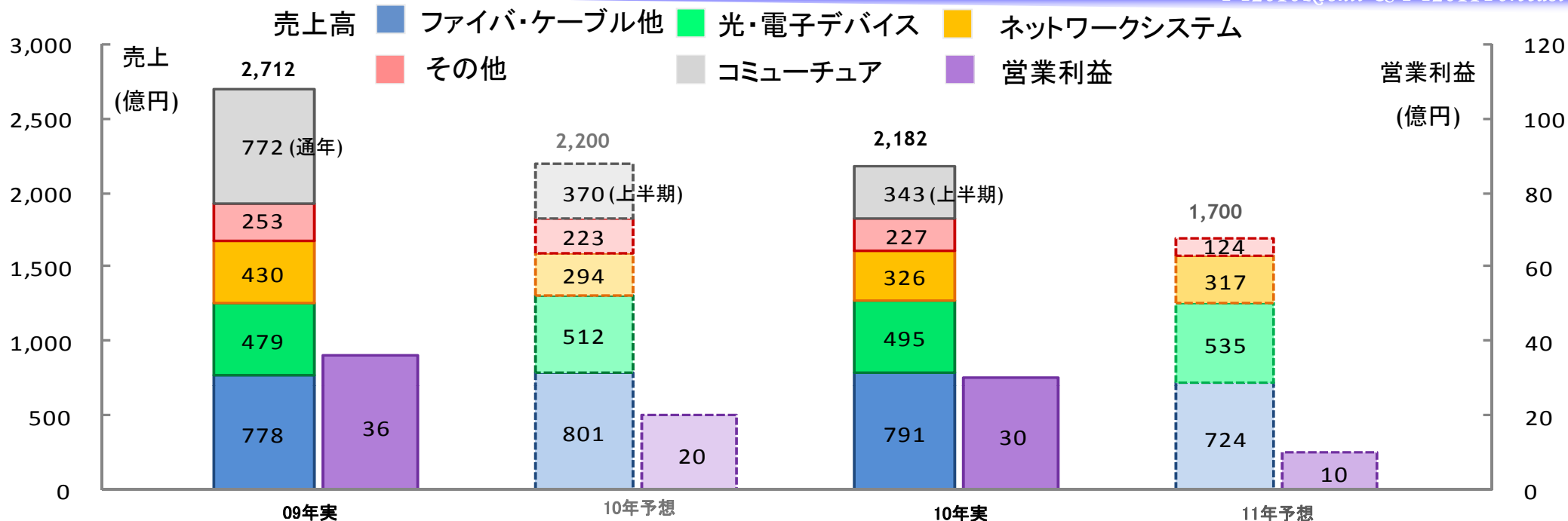
欧州圏の顧客の需要に対応した設備投資(約100億円)

- ・VW、Fiat、ルノー、PSA向け新規車種・モデルチェンジへの対応
- ・欧州の営業技術拠点強化(現地デザイン力強化)
- ・欧州カーメーカーのグローバル化に追随した新興国展開
- ・チュニジア、エジプト等への生産移管



3-4. 情報通信・システム関連事業

FY2010 Result & FY2011 Forecast



2010年度実績

- 円高(対ドル+9.2%)の環境下、ファイバ・ケーブル、光・電子デバイス増収確保
- コスト低減と生産の効率化により、年初予想を上回る営業利益を確保
- 震災関連の災害損失・減損損失計上
- 中国現地資本富通との光ファイバ・ケーブル合併稼働
- 光機器関連子会社の統合「SEIオプティフロンティア」発足
- 通信エンジニアリング子会社(コミュニティア)の再編

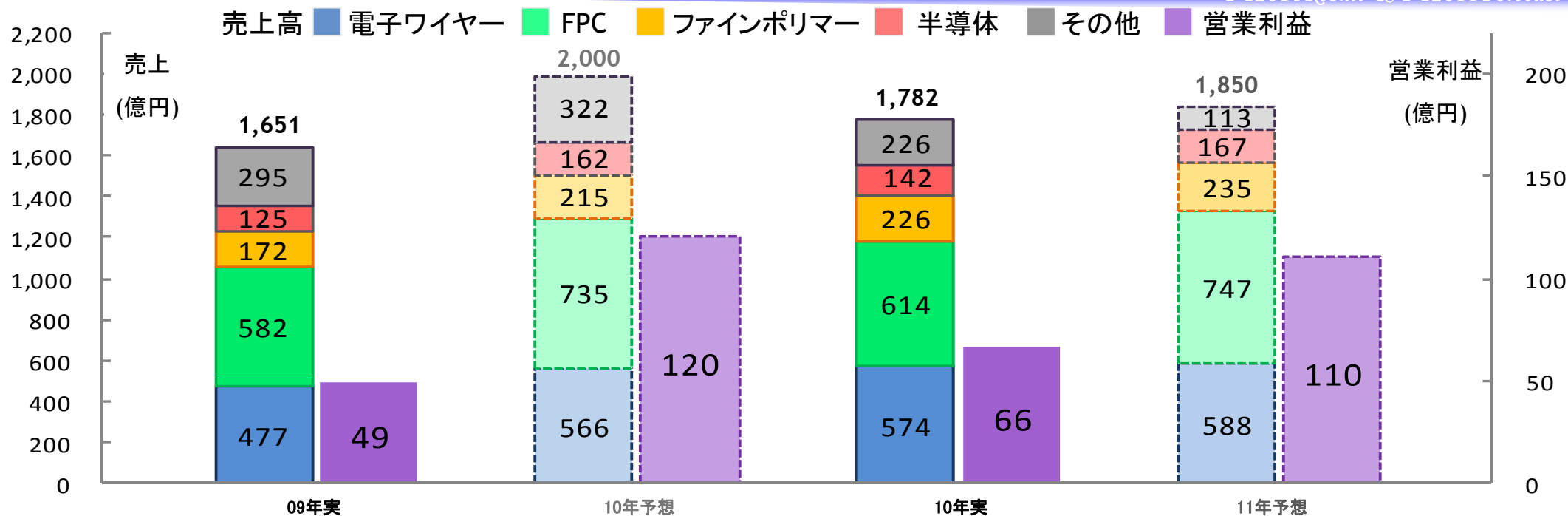
2011年度の施策

- 中国の光ファイバ・ケーブル需要捕捉(富通との合併)
- 中国の光配線機器需要捕捉(南京普天との合併)
- ファイバ・ケーブル設備の早期完全復旧と夏季安定操業確保
- 次期携帯通信システム(LTE)用GaNデバイスの拡販
- 40/100Gbps・長距離光伝送用デバイスの拡販
- WiMAXや映像端末などのネットワーク機器拡販



3-5. エレクトロニクス関連事業

FY2010Result & FY2011Forecast



2010年度実績

- 電子ワイヤーの需要回復とファインポリマー製品の売上増により8%の増収
- 最適地生産とコストダウンの徹底推進により、営業利益を35%増益
- 中国・深圳にて、FPC・電子Wの製造・販売拠点を稼働
- 電子W: 電気自動車向けリチウムイオン電池用タブリードの量産・販売本格化

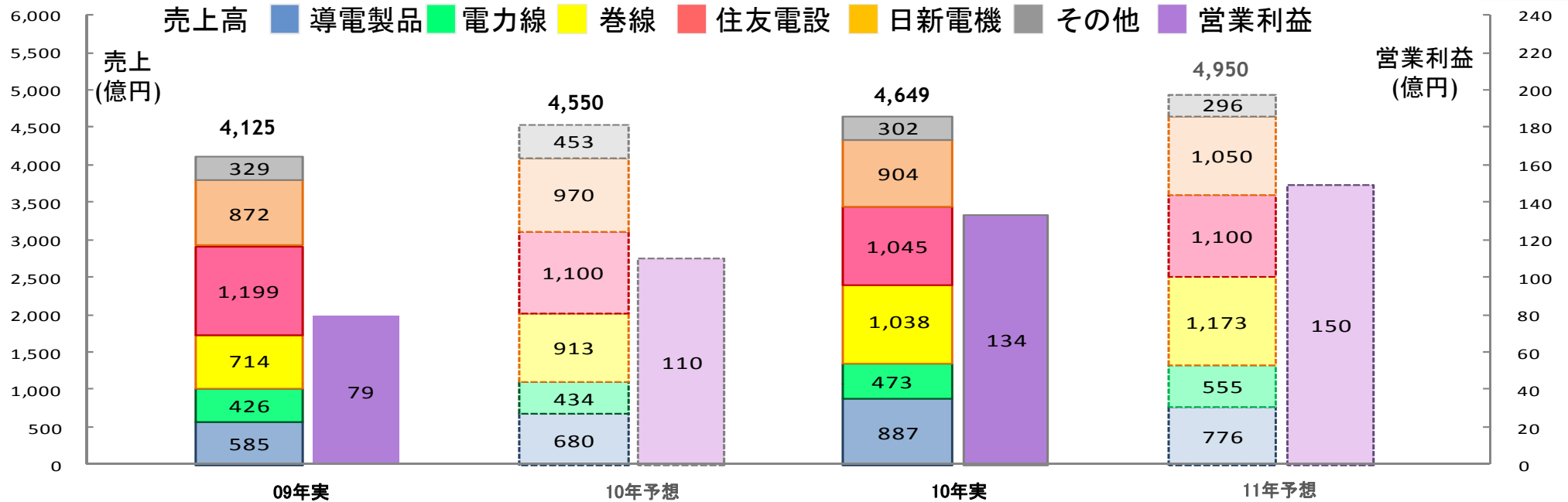
2011年度の施策

- 電子W: 車載用電線の欧米拡販、医療用ハーネス・車載タブリード拡販
- FPC : タブレット端末、HDD、液晶向け拡販
- 中国製造拠点でのFPC一貫生産、電子Wの製造移管推進
- 中国製造・販売拠点立上によるGaAs拡販
- 白色LED用GaN基板拡販



3-6. 電線・機材・エネルギー関連事業

FY2010Result & FY2011Forecast



2010年度実績

- 内需低迷は継続するも、巻線の売上増、銅価上昇(+330億円)により前年比+12.7%の増収確保。
- グローバルに徹底したコストダウンを進めることにより、営業利益を前期比70%改善。
- 日新電機の電子ビーム・真空応用装置の売上拡大。

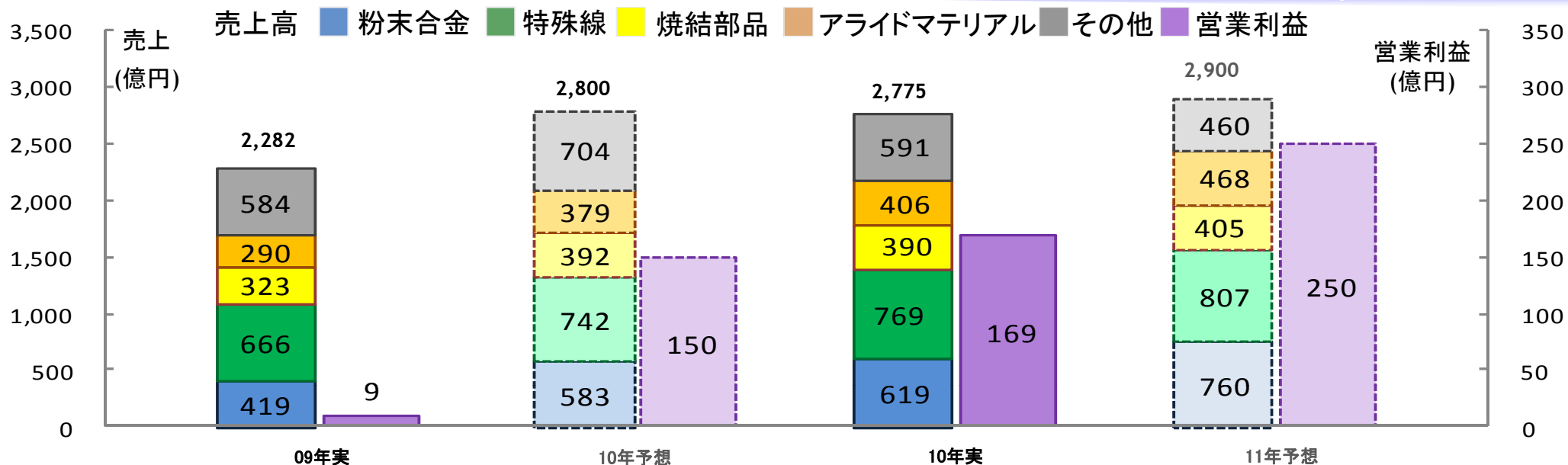
2011年度の施策

- 震災復興関連需要への対応(VVF, 低圧CV, 住設等)
- アジア・中東の電力インフラ需要捕捉と高圧ケーブルのグローバル展開(サウジ、インドのJPS拠点は12年)
- 巻線の総原価低減と、HEV向け巻線の拡販
- 再生可能エネルギー関連製品の開発



3-7. 産業素材関連事業

FY2010 Result & FY2011 Forecast



2010年度実績

- 超硬工具、アライドマテリアルのダイヤモンド製品、特殊線(ばね線・スチールコード・ソーワイヤー)の売上増により、22%の増収
- 前期の営業利益9億円から、169億円に大幅増益
- 超硬工具国内シェア向上:09年度19.2%→10年度19.7%
- 中国、台湾のソーワイヤー製造・販売拠点を設立・稼働

2011年度の施策

- 中国・タイでスチールコード事業合弁(韓:暁星)開始
- 粉末合金のタングステンリサイクルプラント稼働
- 環境対応型の焼結部品の開発強化(VVT、CVT等)
- 中国生産・販売拠点(超硬工具、焼結部品)増強
- 太陽電池製造用のプレジジョンワイヤーソーの拡販
- 携帯基地局用・電力制御用ヒートシンクの拡販

3-8. 研究開発 ~2012年度以降の成長に向けて~

FY2010 Result & FY2011 Forecast



環境自動車向け部品



ナノ多結晶ダイヤモンド
CBN-セラミックス複合材料
原材料リサイクル技術

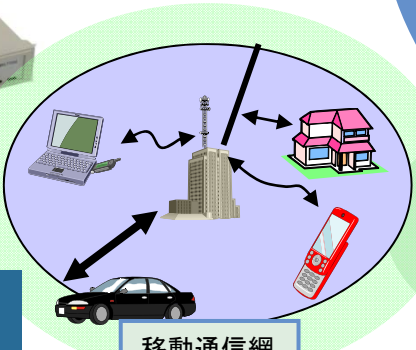


リアクトル

次世代安全・環境自動車に向けた材料イノベーション
HEV/EV関連技術
ハーネス軽量化技術
車載光LAN、リアクトル



フェムトセル (超小型無線基地局)



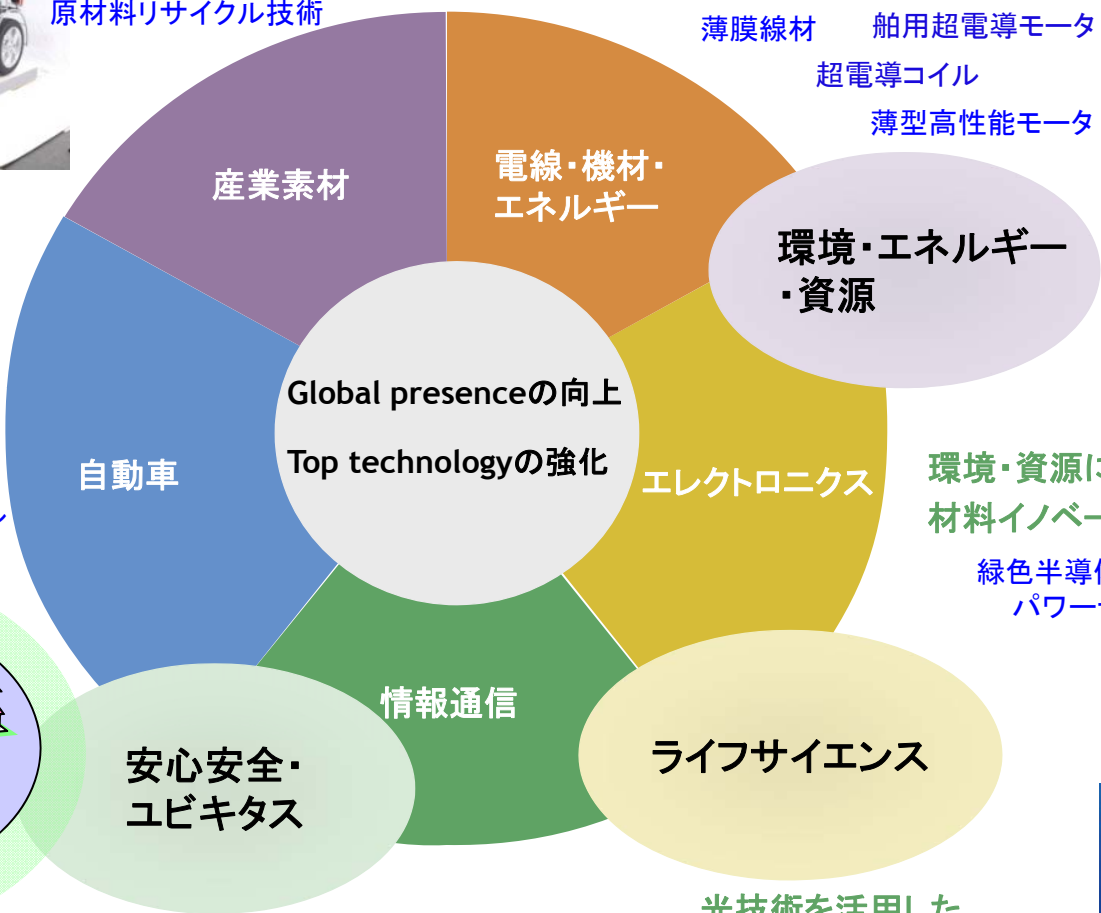
移動通信網



高効率無線増幅器

移動体通信基地局無線ユニット
フェムトセル基地局
高効率無線増幅器
GaN HEMTデバイス
ミリ波帯集積回路(MMIC)

無線ブロードバンドアクセス事業への展開



革新的低環境負荷型素材・システム技術へのチャレンジ

薄膜線材 船用超電導モータ
超電導コイル
薄型高性能モータ



ビスマス系高温超電導線材
水処理、バラスト水処理装置
高密度電池材料、熔融塩電解液電池

環境・資源に優しい材料イノベーション

緑色半導体レーザ
パワーデバイス
Mg合金



Mg合金

次世代光通信事業への展開

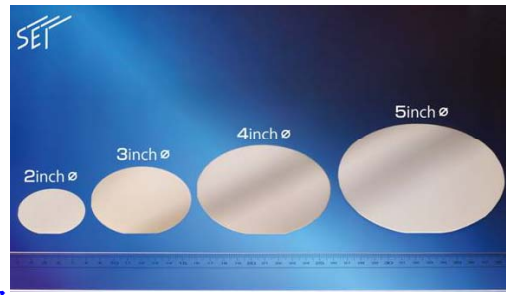
光分岐ネットワーク (PON)
次世代伝送技術 (40G・100Gbit/s)
フォトニック結晶ファイバ
光情報配線(光USB)



大容量高速光トランシーバ

光技術を活用した非通信収益事業の創出

青紫レーザ機器
ファイバレーザ 高機能ガラス
近赤外光による組成イメージングシステム



GaN基板



4. 配当について

2010年度は、期末配当を10円とし、年間19円/株に増配。
2011年度は、現時点の業績見通しを前提に19円/株を予定。





将来情報についての注意事項

FY2010Result & FY2011Forecast

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。